生花極意集

天

353

遠州流挿花極意集

序

往世営花の謂證ハ和漢震旦倶に諸家の
著説に相混盡日本史記と冬者もるに統中
東山の御営館に挿花の規法当行まさに
元和以来可尊当流乃大祖君御英名世に
奔鳴し震旦完坎の億意花形乃配當

6993

C. 187 Three Volumes. "Ikehana-Kiyokushu" by Ichiyu.

今来流に至り先賢の教へ不異ハ華
嚴經に曰闇中に寶を燈なくして見ず事を
不得衆俗の中よりも識者隆なると見ると
解得する者なし今世ハ繋り已が
好手の至るに任せて生譜に隠れた作の
旋に不順傳ゆく葉をの流れとなり
等し實り又都府愛る師乃生涯い

指算に安んぜの此次東都當流乃師祖なる
一葉翁乃杜門より出て殆ど未に春秋を經
暦し已に自問自答此道の傳識ある功
默然と其德に流門人繋蔵せるといへども
惜かな天壽限なくて保命を辞ても鳴呼其
師の教導傳意を学び得なんと誰彼を
衆門に中挙る今師一雄雅丈を則

二世の継主を挙進するに師其頃来年武
謙譲て累年民屋に漂泊し今将鴻に
堂手の頻数道を帛が懇友の徒浮遊を順にするに
和学ありして発達の功逸より自今様の
風情を揮る己非富も旧記と篆書
捨と専する俗し実に奇秘し名を子あり
先年柳の縁を題号せる書冊を始め

文朝庵
一路述

更参庵
一和書し

さま〳〵結風り

柳乃糸小葉の末

二世 文柳庵

一雄

無極有極陰陽之雖識理草木土中之
明生膌師稀也于茲先師文化十霜月
其日挿初水仙之真形後世専行于世
万年青及蘂子花之於于真形従幼七
歳之時入此道累年上草木之于性形
心一歳碎澤中之水観根元解得早春
新葉花之恵凡水陸之草木于是為同
意而可考

三世 文柳庵誌

瓶中始りし事

元和年中流祖高弟専弘末門

寛政之比ニテ流行　マタクハリトイフ

享和年中専流行

一本之幹ハリカノテツカフ　亦ハコミトリ

初学之一助有ニヨッテ専　諸流ニ行

文化之末ヨリ當代ニ至ル

繍毬花

春草庵門

詠茂一紅

梅

文旭菴忰

一甲

辛夷

文宝菴
一鳥

山茶

文車庵
一丸

菊 ッタテモテ

交泰一菴
和

万年青

交正一菴
嘉

燕子花

交傳菴一松

槖吾

交益菴一秀

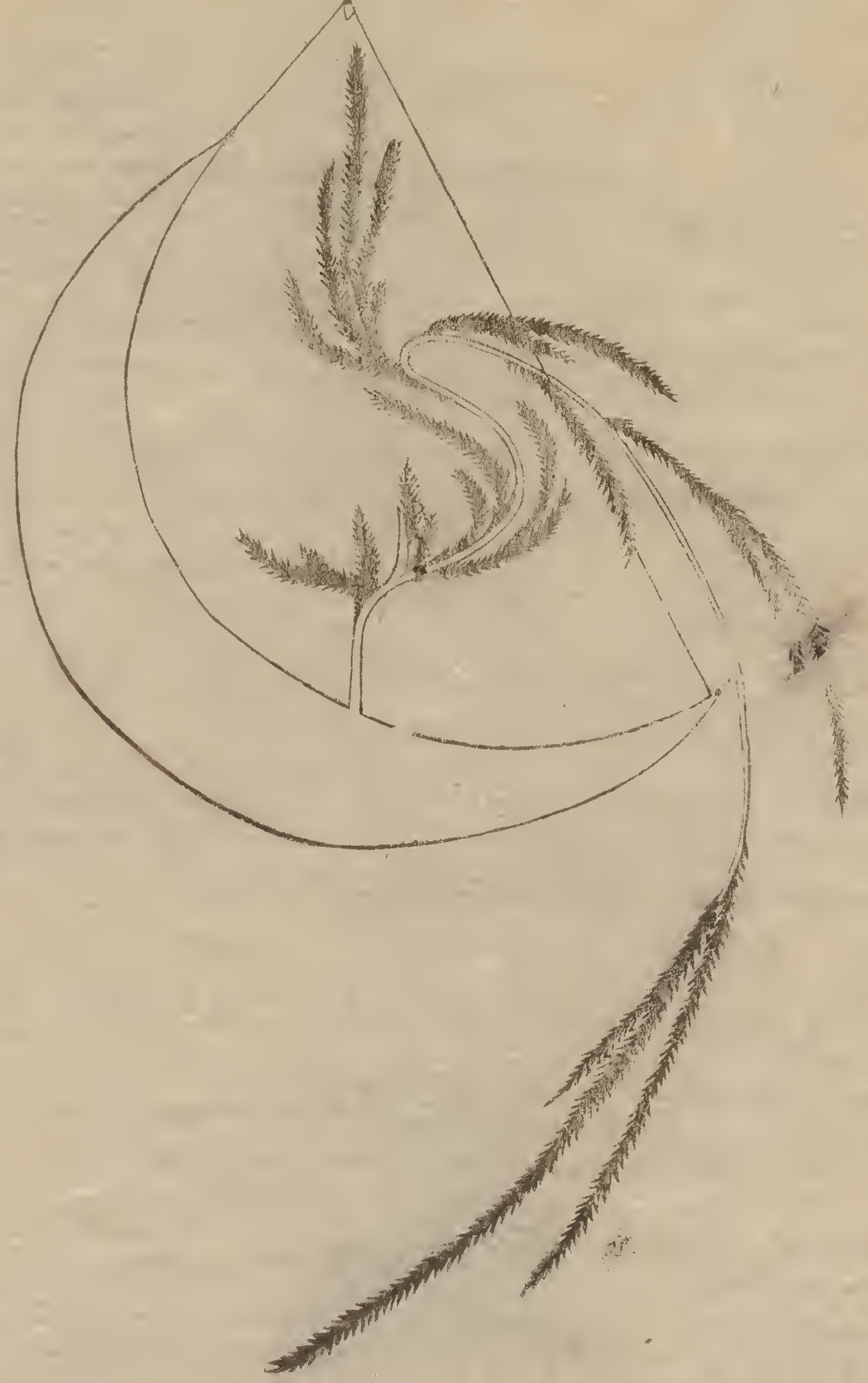
竹
金盞花

春草庵門
木梓口

菊 モミシ

交世庵門
一江

エンカウ杉



春草庵门 秋野英

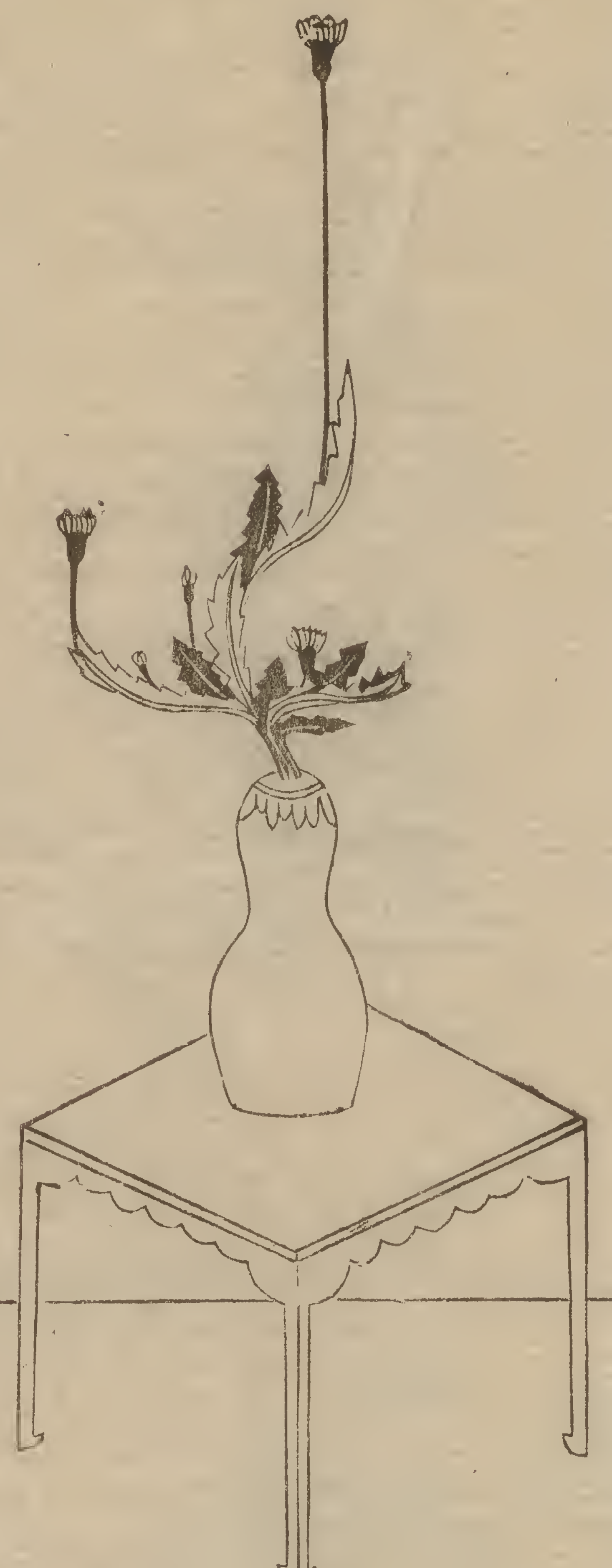
一舩蜞

春草庵門 一𫝆

松樹 ミヤシマ

交旭庵門 一ヒ戎

蒲公英



交生菴 一萠

一舩[illegible]

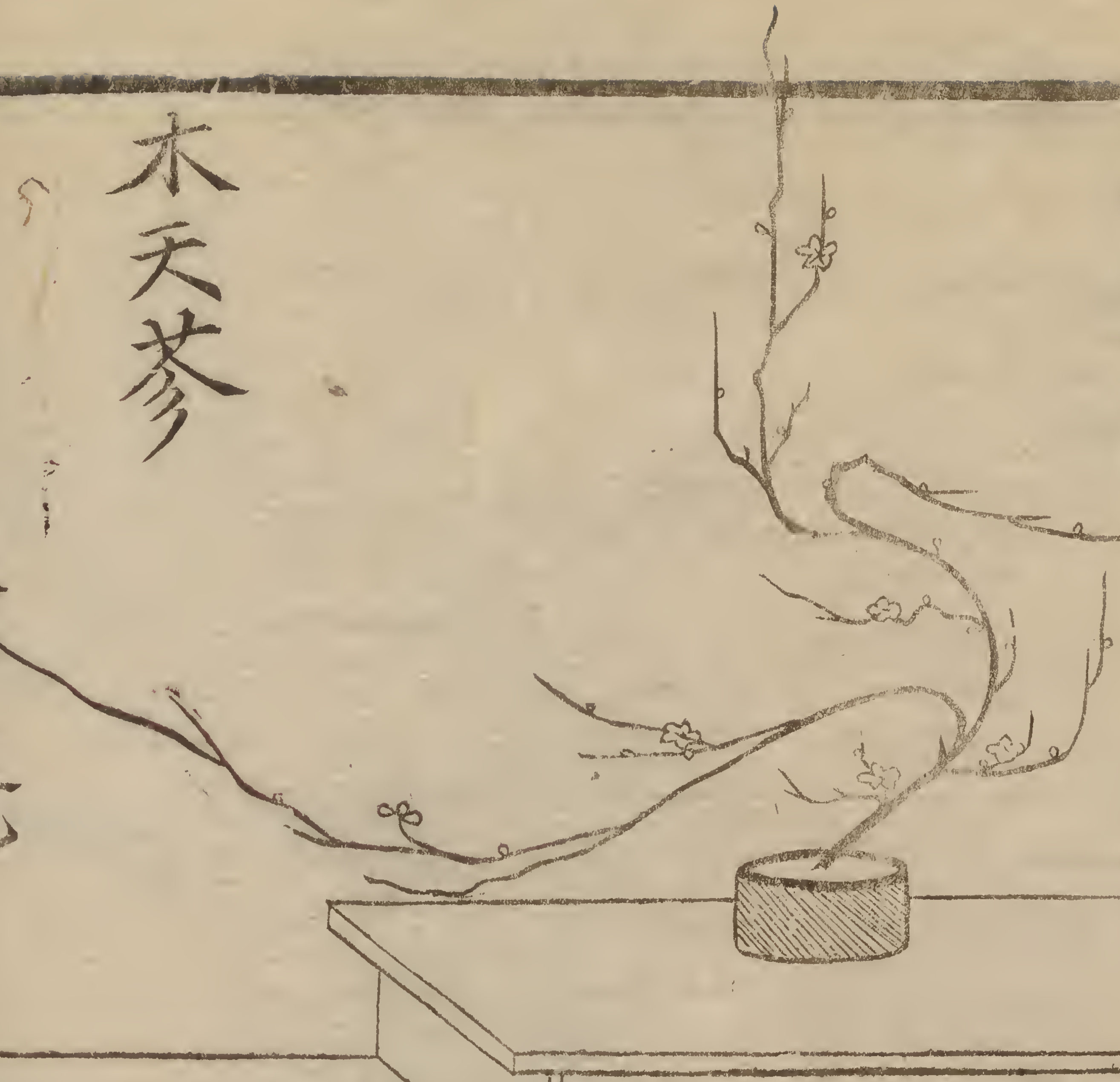
交世一菴一秀

牽牛

交朝一菴一路

木天蓼

交ゝ一菴 麻



濱眼雀蓼

春草庵娼 一草

紫菁

春柳庵門 古柳庵 一意

菊ハマニシキ

祖家後見
文柳庵挿圖

三世
一維寫

燕子花

萬代の色を
さきそめし
杜若つゝゝ

文柳菴

車前艸

交葉庵一芦

莠

交雲庵一左右

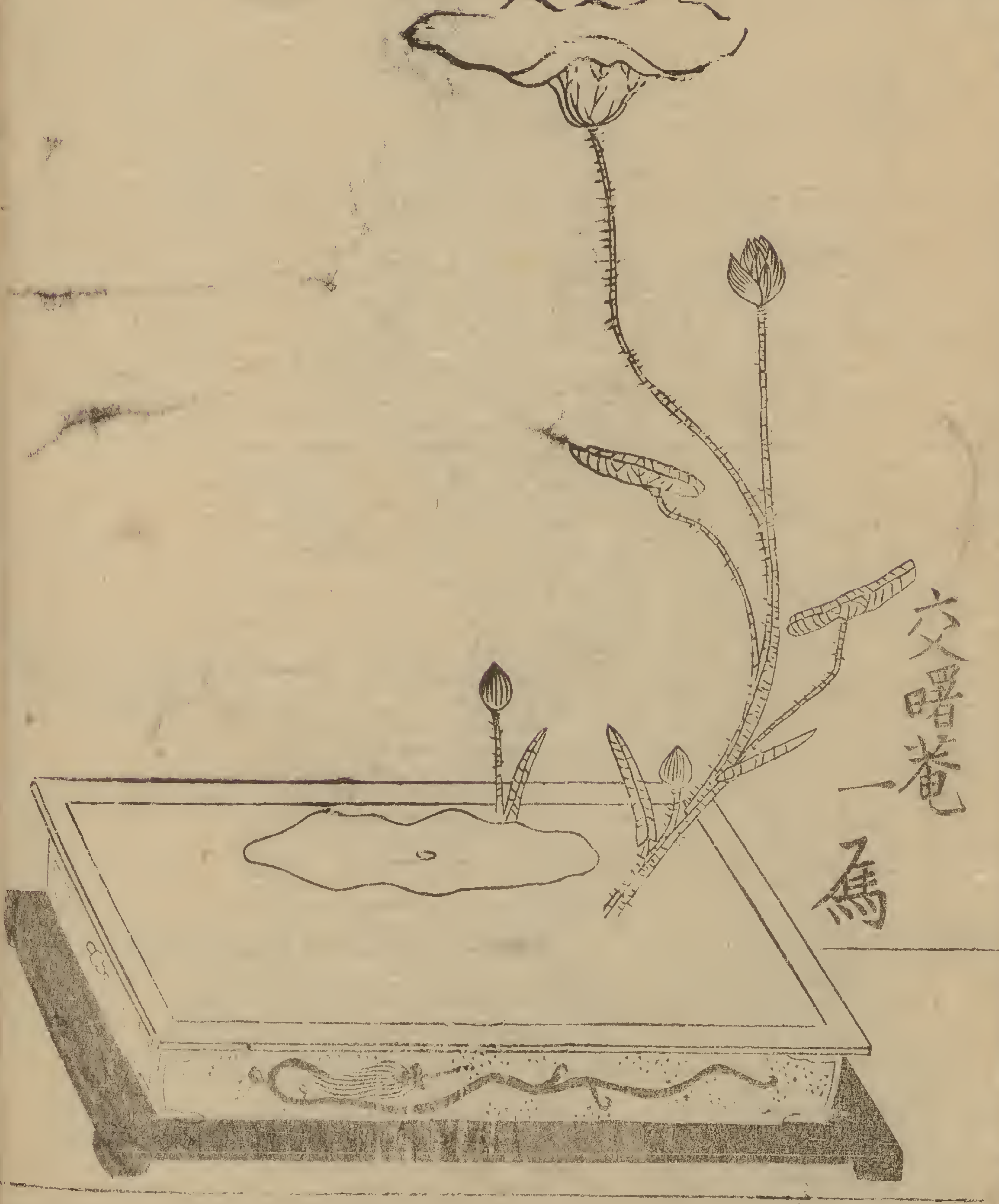
太藺
萍蓬

文進菴連一

秋海棠

文緻菴一僊

蓮



No. 187
$